

2 政治的教養を育むためのポイント

社会科（５年生）における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

（第１時）事前に児童一人ひとりに食品ラベル（産地や値段等が明記されたもの）を集めるように声をかけておく。

T：地図に食品ラベルを貼ってみましょう。

C：（持ち寄った食品ラベルを産地ごとに貼る）

C：肉類は、九州地方が多い！特に鶏肉や豚肉。野菜は、首都圏近郊の産地が多いね。

C：あれ？どうしよう…。（日本）地図に貼れない。

T：〇〇さんと同様、貼れずに困っている人は？

C：肉も野菜も外国産の方が安いから、みんなたくさん（外国産の商品）買っているね。

C：日本は、たくさんの食料を外国に頼っている。

C：そうそう、食料自給率が低い。食料全体の３割しかない。

C：え？ほとんど外国のもの？なぜ低いのかな？

自分たちで集めたラベルを地図に貼る活動をとおして、オリジナルの資料が仕上がります。そうすることで、自然に分析が始まり、児童は気付いたことを呟いたり友だちと話し合ったりしていきます。日本地図を中心に用意することで、あえて外国産の多い事に着目させることも手立ての一つです。

教師は、児童の「なぜだろう？」という問いをクラス全体に広げたり共有したりすることで、次の授業時間の学習問題を整理していきましょう。

ポイント1

児童の主体的な学びを実現するためには、追究したい「問い」を引き出すことが大切です。そのためには、児童の実態に合わせた教材選び、単元構想に努めることが大切です。

身の周りの生活の中には、児童にとって新たな発見、予想や想像をくつがえし驚きを感じるような社会的事象がたくさんあります。「え？今まで知らなかった…。」「あれ？思っていた結果と違う…。」という思考の違いを与える学習材との出会いが、単元導入時では大切です。目の前の児童が、「なぜ？」「どのように？」という「問い」を感じ、「知りたい！」「調べたい！」という思いをもつことができる導入に心がけましょう。

ポイント2

自分なりの考えをもつことを大切にすることを意識させながら学習を進めましょう。

学習問題に対し、一人ひとりがしっかり考えられる時間や調べる時間を確保してあげることも大切な手立てです。授業の終わりでは、問いに対する自分の考えや思いを発言やノートに表現することで、自分の問題として感じるができるようにしましょう。また、問いを解決するために、自分の考えの根拠となる資料を調べたり、その資料を活用しながら表現したりする時間も積極的に単元に取り入れていきましょう。